

科目 **園芸**

藤本大生先生

1947年（昭和22年）福山市 生まれ

経歴

1969年（昭和44年）大学農学部卒業

同 年 県の職員として就職

2006年（平成18年）定年退職

同 年 JA福山市に再就職



大学の農学部を選んだのは…

農業が好きで作物を作りたかったし、努力すれば成果が出るものと思って農学部に入りました。当時の大津野の町長が南斜面の温暖な気候を利用して夏ミカンの栽培を推奨して多くの農家に取り組んでいました。しかし、本当に夏ミカンがいいのかどうか疑問を持っていたのです。

経営の観点から方向転換されました…

専業農家として経営して自立するには規模の問題があることが分かったので、農家の指導の方に転換しました。

農業の担い手の育成、農家の所得向上のための生産・経営技術の普及のために力を尽くしました。今は営農指導員として講習会や営農相談をとおして栽培技術の普及、担い手の育成に頑張っています。

ある害虫が県内で初めて発生するのを確認し、大被害を阻止されました…

重要害虫のミナミキイロアザミウマの大発生を阻止して記録にまとめました。一度大発生するとナスやキュウリの産地として維持できなくなる害虫です。見つけたらその現場で農家に直接に指導を行って駆除しました。多くの生産者から感謝されました。

トマト産地を育てられました…

今では豊松地区はトマトの産地として西日本では有名になってきました。行政と一緒に生産量や品質の向上を図り一大産地に育てることが出来ました。その実践の経過を農業技術体系にまとめることが出来ました。

授業ではどんな質問にも的確に答えて頂いています。現場感覚に裏打ちされた説明にはいつも感心させられます。JAの職員からも「藤本先生」と呼ばれているのを聞いて、みんなから尊敬されておられるとよくわかりました。今年度は研究科の皆さんと実際に作物づくりに取り組んでおられます。

文責 学長 吉川

科目 **木版画**

後藤晋作先生

1947年（昭和22年）福山市 生まれ
経歴 1969年（昭和44年）大学卒業
2001年（平成13年）小学校長を退職
2003年（平成15年）福山市北部市民大学 木版画教室受講
池田勉先生の指導を受ける



受賞歴等

2006年（平成18年）日本版画会展 奨励賞受賞
2014年（平成26年）～日本版画会 理事 審査員 事業部長等歴任
2014年（平成26年）～日本版画会主催のパリ、ウイーン、ギリシャ
などでの展覧会に出品
2018年（平成30年）日本版画会展 文部科学大臣賞受賞

そもそも美術が好きでした…

高校では美術部に所属し、大学では美術の教員を目指して勉強をしていました。特に彫塑を専門としていて、モデルを見ただけで骨格や筋肉の付き方が分かります。

版画との出会い…

退職して北部市民大学に通い始めることにしました。本当は写真が第一希望でしたが、希望者が多くて第二希望の木版画のクラスなら入ることが出来るということでした。本来の美術好きであることと、池田先生の素晴らしい作品に以前から触れていたのが木版画への入学を決意しました。

絵画や彫塑にはない難しさがあります…

摺りをする事で下絵とは反対になるという版画の特徴には困らなかったが、彫刻刀で彫る難しさには苦勞をしました。美術専攻ながら版画は年賀状しかしていなかったのが、細い線は特に困難でした。ペンだとスッと引けばいいのだが、彫刻刀で細い線を残すというのは高い技術が必要で、線が切れてしまって何度もやり直しをしました。

短期間で多くの賞を受賞されました…

モチーフを見つめて、大きく形をとらえ、色を置いていくように単純化するの難しいけれど楽しみです。自分で言うのはどうかと思いますが、学生時代からずっと絵を描いたり彫刻をしたりしていたので、デッサン力や画面構成力が鍛えられたのだと思います

健康管理も盤石です…

毎晩芦田川で45分程度のウォーキングを続けています。同じ年代の7～8人がそろって歩いています。心を開いて話しながら歩くのはいいものです。心と体の健康に繋がっています。

文責 学長 吉川

科目 **書道漢字**

江 草 有 山 （本名 悟）先生

1936年（昭和11年）福山市 生まれ



経歴

1957年（昭和32年）市内中学校教諭として採用される

1996年（平成8年）市内小学校校長を退職

書道歴

中学校2年生から終生 岡田芦舟先生に師事する

高等学校の3年間 村上三島先生に師事し漢字の稽古に精進する

勤務しながら3年間、桑田笹舟先生に師事し仮名を習う

書道との出会い

努力のたまものです…

高校の時に村上三島先生との出会いがありました。3年間は夜の稽古のために福山まで毎週通いました。当時のことです。町の灯りも街灯もほとんどありません。少しでも上達したいという思いで暗い夜道を懸命に自転車のペダルをこいだものです。

仕事との両立…

また、昭和46年から桑田先生に指導をうけた3年間は、夜遅く家が静まり返ったときが稽古時間であり、仕事との両立に苦勞しました。村上先生の言われる「一作 三千」は稽古の大切さを説かれた言葉で、常に心に留めて稽古を続けました。しかし、生徒の指導に毎晩奔走しており気分が高まった中での稽古であり、なかなか筆が進まない日々が続きました。

平成8年に広島国体が開かれたとき、漕艇競技の賞状の筆耕役に選ばれました。大会会場でリアルタイムの賞状づくりのために練習の時間がなく、どこの県が優勝してもいいように2か月ほど前から毎晩練習したものです。

健康のために

各種スポーツに取り組みながら健康維持に取り組まれています。

忙しい中でも稽古をかかさずずっと自己研鑽に努めてこられました。福山市のスポーツ指導員協議会の会長としてもご活躍中で、市民のスポーツの振興及び健康増進に尽力しておられます。文字通り「文武両道」を体現されている姿に頭がさかります。益々のご活躍を祈ります。

文責 学長 吉川

科目 書道かな

瀬尾可南舟（本名 薫）先生

1948年（昭和23年）福山市 生まれ
経歴

1966年（昭和41年）高等学校卒業
家業に就く

書道歴

小学校2年生から高校卒業まで 岡田芦舟先生に師事する
高校卒業後しばらくして坂田文香先生 三宅相舟先生に師事する

受賞歴

2001年（平成13年）毎日書道展大賞受賞
広島県美展 入選多数
福山市美展 入選多数



書道との出会い

長いキャリアです。子どもの時から続けられています。…

小学校2年生の時に習い始めました。中学校は書道クラブがなく美術クラブに属しており、高校で岡田先生と再会し高校の書道クラブで練習を始めました。岡田先生との再会は大きな意味をもったと考えています。

書道との再会

母として、妻として、職人として とにかく凄い…

家業に就いたことで仕事に懸命に取り組み、趣味や習い事にわき目を振ることはできませんでした。子どもが保育所に上がったころに、もう一度書道の稽古を始めることにしました。

家事、子育て、仕事にと目の回るような忙しさでしたが稽古にうちこみました。家族が寝静まった深夜が稽古の時間でした。朝早い仕事があったけれど寝る間を惜しんで稽古に打ち込みました。

さらなる研鑽

何事も「分相応」と思っておられるそうですが…

自分で作った料紙で作品を残したいという気持ちから、独学で版木を彫り加工を続けて夢中で料紙を作り作品を仕上げました。試行錯誤して硬い版木を彫りました。とにかく粘り強く毎晩版木に向かいました。

料紙づくりからされるなんてすごい先生です。福山市北美協の事務局長としてご活躍されており、頭が下がります。 文責 学長 吉川

科目 詩吟

井上 錦賀（本名 賀永子）先生



1939年（昭和14年）福山市 生まれ
経歴 1958年（昭和33年）高等学校卒業
1972年（昭和47年）錦城流に入門
2009年（平成21年）福山市老人大学講師就任
2014年（平成26年）錦城流旭教場の指導引き継ぐ
2019年（令和元年）錦城流大師範に推挙される
2020年（令和2年）福山市老人大学講師退任
公職 2005年（平成17年）交通指導員に福山市から委嘱される
2011年（平成23年）交通指導員退任

竹馬の友に誘われて始めました…

市役所に勤める古くからの友達が、小山城将先生に詩吟を習っていました。興味はありませんでしたが、誘われたのでなんとなく入門しました。4年後のことです。福山市の市制施行60周年の記念行事で山元錦城先生の宗家吟を聞いたとき、声に張りがあり、情景が目浮かぶような詩吟に涙がでるほどの感銘を受けました。また、宗家が鹿児島から上京して苦労を重ねながら名声を得ていく努力を立石元市長との対談で語られたのははっきり覚えています。

稽古にも工夫しました…

小山先生の指導による週に1回の稽古場での練習に飽き足らず、家でも練習をしていました。しかし家族からは「うるさい」と煙たがられていました。そこで孫と一緒にドライブしながら詩吟の練習を始めました。小さい子供の力に感心しました。振りを付けながら詩吟を吟じるのです。孫に繋がっていることがうれしかったです。

口伝の難しさ…

支部大会に選ばれて吟じたことがありました。うまくいかなかったので先生から厳しく叱られました。やめたいとも思いましたが、生来の負けん気と上達したいという気持ちをもって練習を重ねました。大師範に推挙されたときは自分に務まるかと逡巡いたしました。大きな責任も負うことになりましたので、一層努力するよう心に誓いました。

指導にあたっては…

小山城将先生から口伝の厳しい指導を受けました。学生の皆さんにも古くから伝わる詩吟の指導を行います。楽しい稽古を心掛けたいと思います。学生の皆さんから学びながら成長していきたいと思っています。

文責 学長 吉川

科目 俳句

山崎英治先生



1955年（昭和30年）福山市 生まれ
経歴 1977年（昭和52年）大学卒業
国家公務員として採用
1997年（平成9年）NHK文化センター 俳句講座を受講
松田太郎先生に師事し「風雪」入会
2008年（平成20年）「運河」入会
2014年（平成26年）「運河」同人 俳人協会会員 大阪俳人クラブ会員
賞歴 運河賞
2012年（平成24年）選考委員に一席に選ばれる
2015年（平成27年）編集長から四席に選ばれる
2017年（平成29年）編集長から一席に選ばれる

俳句との出会い

本が好きで、特に司馬遼太郎の本が好きだそうです…

司馬遼太郎は歴史小説の中で金字塔を残された人です。それらの小説の中には短歌や俳句が添えられており、その解説がうまいんです。心情や様子がなるほどなあというように実に的確に表現してあるのです。俳句を作ってみたいなあと思っていた時にNHK文化センターの講座の中に俳句があることを見つけ勉強することにしました。

「馬酔木」が好きで続けられたそうです…

もともと「馬酔木」は革新的な俳句を発表しており、高原に出かけたり登山をしたりして詠まれた俳句が好きでした。それを目標にして俳句づくりを続けてきましたが、同人が年齢をかさねることでその気風が変わってきたことで、他の結社を探すようになってきました。

新しく「運河」に入会されました…

茨木和生氏（俳人協会副会長）が主宰される「運河」はイノシシやタヌキも季語に使う斬新な俳風を持っていました。珍しいと思い結社に入会して活動を始めました。会員には名立たる文化人が多く全国の句会に参加して実力を発揮されていました。文化が根付き広がっていくのはこのような人たちの力が大きいのだということを実感しました。

若くて行動的な先生です。関西を中心に句会に参加されて実力を磨いてこられました。実際に俳句が作れるよう指導いただけます。 文責 学長 吉川

科目 古典

落 健 一 先生

1938年（昭和13年）岡山県 生まれ

経歴 1963年（昭和38年）広島大学大学院修了
同年 岡山県児島高等学校
教諭として採用される

1965年（昭和40年）広島大学附属福山高等学校教諭

1999年（平成11年）定年退官



国語教師として

政治家 医師 研究者 官僚など多くの卒業生に慕われておられます…

岡山県立児島高等学校で教師としてのスタートを切り、恩師からの助言によって広島大学附属福山高等学校に異動されました。以後8千人の卒業生を送り出し、数多くの教え子は、県内はもとより全国、海外であらゆる分野で活躍しており、今でも個人的な付き合いだけでなく同窓会へ招かれるなど、皆さんから慕われています。

言葉の知識の源が分かりました…

広島大学の清水文雄教授（古典専門）藤原与一教授（言語学専門）から強い影響を受けられたそうです。清水教授は学習院大学から広島大学に移ってこられ、上皇陛下の恩師として活躍されていた方です。

人生の転機は大学3年生の夏のことだそうです…

東京大学の時枝誠記教授（言語学）の東京のご自宅をお訪ねした時に先生のおっしゃった次の言葉が転機となり、以後の教師生活、研究生活に大きな影響を受けたと言われました。

「研究は、スペキュレーションです」（speculation 投機 仮説）

健康のために…

わずかなお酒と、市民大学で学ぶ意欲の旺盛な学生の皆さんと接することが元気の源だそうです。

県地域文化功労賞受賞

令和3年12月15日、古典の魅力を広め、古典ゆかりの史跡を紹介している功績が認められて湯崎広島県知事から表彰されました。

福山に古典愛好者が多いのは落先生の功績です。受賞理由のほかにも落先生は、「古典の日」に関する法律が成立したばかりの平成24年に「古典の日」に関わる行事である古典の講座を実施されました。法律ができた年からずっとこの行事を続けているのは、福山市以外では京都市などわずかです。落先生のご功績は大変大きいものがあります。 文責 学長 吉川

科目 生け花

佐藤和子先生

1957年（昭和32年）福山市 生まれ

経歴

1980年（昭和55年）大学を卒業して就職する

1981年（昭和56年）嵯峨御流の稽古を始める

1992年（平成4年）正教授を拝受する



恩師の田上先生との出会い

就職して間もないある日のことです。母が知り合いの田上先生の所へ私を連れて行きました。先生の家に行くと凛とした空気が私を包み込みました。何か一つでもいいから身に着けてほしいと母は願っていたようでした。

田上先生は、自分が小学生の時に隣のクラスの担任だったから、なじみの先生で、厳しいことは知っていました。稽古の時に気が散っていたら

「花以外のことを考えるのなら来なくていい」と厳しい指導がありました。

1から10までとよく言いますが、10以上も教えていただいた先生です。

嵯峨御流の稽古では

決して生け花や草花を育てることに興味があったわけではありません。しかし、母も生け花をしていて嵯峨御流に属していました。母が正月に生けた万年青は緑の葉がきりりと立ち、紅い実が足元に鮮やかに輝いていました。母の生けた花を強く記憶しています。嵯峨御流になじみがあったのです。

習い始めた当初は、先生の言われた通りに生けようと思いました。がなかなか形になりません。先生から社中以外の場も紹介いただいて、そこでも生けながら自分を磨いていきました。次第にお花の稽古は自分にとってかけがのないものになってきて、家庭や仕事とは離れた、いつもとは違った空間に思えるようになってきたのです。今考えるとお花をしていたから仕事も続けられたものと思っています。

学生のみなさんとは

一緒に稽古を続けていきたいと思っています。その中で、いま考えていることは、身の周りの草木を生かした花を生けていきたいということです。基本を身に付けると、家の花が生けられるのではないかと思います。

「道」とつく習いごとが先細りになることが心配です。古くから続く嵯峨御流のためにも学生のみなさんと頑張ってください。

先生は古典の学生でもあります。万葉集も書道もお花と通じるところがあるとされています。習い事、稽古事は平安の昔から続く日本の文化ですね。

文責 学長 吉川

科目 陶芸

桑原みさお先生

1942年（昭和17年）福山市 生まれ

経歴

1961年（昭和36年）陶芸の勉強を開始

1966年（昭和41年）NKK入社

1997年（平成9年）退社し自宅に窯を設置

受賞歴等について

1988年（昭和63年） 2003年（平成15年）
伝統工芸展入選

1979年（昭和54年） 1986年（昭和61年）2005年（平成17年）
広島県展大賞



陶芸との出会い

独学で始めました…

小さい頃から古墳や骨董が好きで、弥生式土器の破片に興味がありました。自然に作陶に関心に移り自己流で焼物を始めました。会社では職場の仲間と一緒に同好会を作り、会社からも認められるクラブ活動に発展させました。仕事にも努力してきた結果と思っています。窯づくり、発表の場の選定などを積極的に行い以後の活動の基礎作りができました。

座右の銘

「名利共に休す」… 名誉とお金はほどほどに自分の身の丈にあった暮らしぶりこそ大切といった言葉と理解しています。好きな陶芸をずっと続けていきたいと考えています。

「無 功 徳」…この気持ちが大切だと考えてライオンズクラブに入会しました。地域の安心・安全に奉仕する気持ちで活動を続けています。

健康のために…

好き嫌いをせずになんでも食べるようにしています。特にタンパク質の肉や魚を食べています。お酒も適度に楽しんでいます。音楽を聴き働くことを楽しみ若者たちのグループと活動することも元気の秘訣です。

いつも活動的で元気潑刺です。みんなで作品を仕上げ、窯出しをするときの先生のご活躍は想像できるような気がします。今も学生の皆さんを指導しておられる元気をいつも頼もしく思っています。 文責 学長 吉川

科目 油絵

長谷川 雅敏 先生

1956年（昭和31年）福山市 生まれ

経歴

1979年（昭和54年）岡山大学教育学部特別教科美術

・工芸教員養成課程卒業同時に広島県高等学校美術科教諭に採用される

2009年（平成21年）時悠館において個展開催

受賞歴等

1979年（昭和54年）第45回 東光展及び第31回 広島県美展初入選

1983年（昭和58年）第49回 東光展「東光賞」受賞

1990年（平成2年）第42回 広島県美展 3回目「奨励賞」受賞 無鑑査

1994年（平成6年）第26回 日展初入選 東光会会員推挙

2011年（平成23年）第77回 東光展 「会員賞」受賞

東光会員・審査員 日展会友 福山美術協会会員



子どもの時から絵を描くのが好きでした…

小さいときから絵を描くのが好きでした。小学校のときにコンクールで入選して、褒められて嬉しかったことを覚えています。一生懸命に描いた絵が認められたと思って自信ができました。中学生になったらアクリル板で立体を作ったり魚拓を取ったりして、美術の授業が幅広くなって一層興味を持ちました。テニス部に所属していましたが、空いた時間に美術室の石膏像のデッサンを描いて美術の小寺先生に見てもらっていました。

進学には迷いました…

美術系の大学への進学がしたいと考えて先生に相談すると、絵を描いて生計を立てることの難しさを考えて教師になることを勧められました。実技を重視した特別美術科に進学して高等学校の教師になることを目指しました。

異文化に触れて感性を磨きました…

若いうちから感性を磨きたくてイタリアやギリシャなどヨーロッパを訪れてスケッチに励みました。古い歴史に裏打ちされた建物はとても重厚でそれを表現することが難しかったので色の選択、筆のタッチなどに工夫を凝らして描きました。しかし、学べば学ぶほど油絵の難しさと奥深さを感じています。

指導にあたっては…

高校生の指導をしていると、何かをきっかけにして突然変わることがあります。懸命に探し求め自分で見つけていくことで可能性が開けていきます。自分の感性を大切にして、個性あふれる絵を描いてほしいと思っています。

学生のみなさんが自らの感性を発揮して、個性があふれる作品ができることを願って指導をしたいと、意気ごみを聞かせていただきました。

文責 学長 吉川

科目 **カラオケ（演歌 青春歌謡）**

井口 幹 仁 先生

1949年（昭和24年）福山市 生まれ

経歴

1967年（昭和42年）高校卒業

1967年（昭和42年）自動車関係業界に就職

1985年（昭和60年）地元のカラオケ教室の指導を開始

1987年（昭和62年）鉄工所を自営

2005年（平成17年）全国指導者協会会員



若くから音楽が好きでした…

子どもの頃から音楽が好きで、テレビの音楽番組が好きでした。橋幸夫、舟木一夫、西郷輝彦いわゆる御三家の全盛期で随分熱中したものです。後から聞いたことですが、父親も地域の芸能祭で歌ったり、太鼓をたたいていたりしたようで、血をひいているのかもしれない。

地域の女性会（当時の婦人会）から🔪の指導を依頼されました…

近所の皆さんとバス旅行に行った時のことです。前に出ることが決して得意ではありませんが、進められたので好きな歌を一曲歌いました。その時に聞いておられた女性会のかたから声がかかったのです。それから、地域の集会所で数人のカラオケ好きの方に指導を始めました。そのことが次第に広がって、公民館での教室での指導や、駅家東学区の盆踊り大会で「ふるさと踊り保存会」を代表して、歌を披露するようになりました。

今では、6教室で40数人の皆さんに指導をしています。生徒の皆さんが気付かなかった部分を指導することによって、歌い方が変わりよかったといわれることは自分の喜びになります。

健康にも留意しています…

楽しく歌うにも、聞く人に喜んでいただくように歌うにも健康が大切だと思っています。だから、酒もたばこもしません。なんでも美味しくいただくことが大切です。息子の嫁さんが作ってくれる食事を楽しみにしており、いつもおいしくいただいています。本当に感謝しています。

『歌（演歌）は人を集わせ、良き友人を作り、そして自分を表現することができる素晴らしい趣味だと思っています。皆さんと一緒に楽しんでいきたいと思えます。よろしくお願ひします。』と言われ、気負いはありません。大変楽しみです。

文責 学長 吉川

科目 写真

三 谷 豊 先生

1956年（昭和31年）福山市 生まれ
経歴 1977年（昭和52年）高等専門学校卒業
福山市職員として採用
2004年（平成16年）二科会に入会
2017年（平成29年）定年退職



主な受賞歴

2005年（平成17年）二科展 奨励賞受賞
2006年（平成18年）二科展 オリンパス賞受賞
2008年（平成20年）二科展 日本発色賞受賞
2019年（令和元年）二科会 会員

写真との出会い

親から一眼レフカメラをプレゼントしてもらったそうです…

中学生の時、仲の良い友達が写真部に入っていて、自然とカメラに興味を持つようになりました。高専入学時に親から念願の一眼レフカメラを買ってもらいました。カメラが手元に届いたときの感動は今でもはっきり記憶しています。

高等専門学校に入学されると写真クラブに入ったそうです…

高専では迷わずに写真クラブに入りました。学校行事や生活場面、風景などのスナップ写真を撮り高校生対象のコンクールにも応募しました。特にこだわったジャンルはなく、いろいろなものを撮影して歩いたものです。特にこだわって何かに集中して撮影するということはありませんでした。

仕事をしながら写真を続けられました…

特定の師匠はおらず、週末の仕事休みを利用し珍しい祭りがあると聞きつけると早速に出かけたり、紅葉の季節には朝早く起きて出かけたりしながら撮影し、市美展などにも出展しました。

二科会に所属され会友になっておられます…

以前は写真専門の写真協会に所属していましたが、フィルムからデジタルに変わったときに二科会に入会しました。絵画や彫刻もある美術団体の二科会は自分の活動に影響を与えてくれました。市美展、ふくやま観光写真コンテスト、福山市立動物園写真コンテストの審査も経験しました。

受講生と一緒に学び、皆さんの力量アップを図ってまいりますと、謙虚に語ってられました。 文責 学長 吉川

科目 **パッチワークキルト**

坂 光 真 由 美 先生



1954年（昭和29年）瀬戸内海の小さな島の生まれ
経歴

1977年（昭和52年）独学でパッチワークの勉強を始める

1985年（昭和60年）チャクススクール大阪校入学

同 年 キルトタイム開講（私塾）

1995年（平成7年）日本手芸普及協会指導員資格取得

2020年（令和2年）退会してキルト作家として活動開始

受賞歴等 2001年（平成15年）東京キルトフェスティバル入選

広島平和キルト展 2回入賞

東京キルトフェスティバル 3回入賞

キルトタイム作品展 12回開催

パッチワークとの出会い…

元々手芸が好きで人形などを作っていましたが、子どもが生まれたことで男の子に似合うロンパースを制作しました。そんな時、月刊誌「美しい部屋」でパッチワークに出会い独学で勉強を始めました。三角つなぎ四角つなぎをしながら色合わせや寸法合わせに苦勞しながら工夫を重ねながらの制作でした。

座右の銘 「ゆっくり 休まず 諦めず」美空ひばりの言葉から…

パッチワークの作成に当たっては心のゆとりが必要でして、粘り強く続けることが大切だと思っており、この言葉を大切にしています。作品制作には1年以上かかることもあり、諦めずに続けることで完成した時の喜びは格別です。

健康のために

健康には人一倍気を使っておられます…

家族のために減塩調理や野菜中心の献立づくりなど食育の勉強中です。ウエイトコントロールをして健康づくりをしています。週に3日の7000歩のウォーキングを欠かさず続け太極拳もしています。

日本手芸普及協会の資格をいち早く取得され、パッチワークの先駆けとして活躍されています。学生の皆さんを大切にしながら明るい雰囲気の中で指導をいただいております。ブログを開設されています「ふくまゆ」で検索してみてください。なお、令和2年からは独立してキルト作家として活動を始められました。コロナ禍で出品できる機会が減ってきましたが、更なる高みを目指して頑張ると言われております。

（令和4年7月 文責 学長 吉川）

科目 **水彩画**

村 上 幸 子 先生

1941年（昭和16年）福山市 生まれ

経歴

1963年（昭和38年）大学教育学部卒業

同 年

教員に採用される

東中など市内の小中学校を歴任

1999年（平成11年）退職

受賞歴等

1999年（平成11年）日展初入選

2020年（令和2年）日展会友

東光会会員 福山市美術協会会員 神辺美術協会会員



絵との出会い…

子どものころから絵を描くのが好きでした。小学校2年生の時に「月見」の絵を教室に飾ってもらってうれしかったのを覚えています。中学校では美術部に入り、初めて油絵具に触れた時の感動は忘れません。スーッと伸びる感触、独特のにおい、一生絵を描き続けたいと思ったものです。中学校の三好文子先生、高校の小寺照久先生は絵を描くきっかけを作っていただいた恩師です。

和田貢先生に育てられました…

三好先生に紹介して頂いた和田貢先生との出会いは自分にとって一番大きな出来事となりました。展覧会の出品前にはアトリエに出かけて夜遅くまで指導をしていただきました。今あるのは先生のおかげです。

退職して絵に専念できると思ったときに和田先生が東京に拠点を移されました。強いショックを受けると同時にいかに先生に頼り切っていたかという自らの甘さを思い知らされました。しかし、先生に教わった学び続ける姿勢はこれからも持ち続けたいと思います。

教員をしながら制作を続けました…

教員、子育て、そして絵を描き続けることは大変でした。しかし、ある展覧会で「先生に褒められたので絵が好きになりました。先生のおかげです。」と教え子が話してくれました。教師冥利に尽きます。

指導に当たっては

「今日は市民大学で授業があるから楽しみだ」といった目標をもって通っていただき、絵を描く喜びや生きがいを感じていただきたいと思っています。

文責 学長 吉川

科目 紙バンド手芸

井上美紀子先生

1949年（昭和24年）福山市 生まれ

経歴

1967年（昭和42年）高等学校卒業

同年 銀行に就職



紙バンドとの出会い…

若い時から指先を使った物づくりは好きだったが、大人になってからは仕事一筋でわき目も振らず家業に精を出した。仕事も一段落つきボランティア仲間と公民館活動をする中で紙バンド手芸を始めました。

独学しかなかった初期に…

出会った当時は手芸用の紙バンドがなくて、荷造りひもを活用してかごなどを作っていました。茶色の紙で作っても変化がなく決して見栄えのするものではありませんでした。色を塗ったり他の素材を混ぜたりしながら作品づくりをしていました。参考にするものはなくて荒関まゆみ先生の書かれた編み方の本だけでした。私にとっての師匠は荒関さんの本です。

困難ばかりの稽古…

本だけが頼りですから一つの作品をつくるのに大変な苦勞がありました。今思えば厳しい義父の言葉が市民大学で教えることができるまでに成長させてくれたのではないかと思います。当時家具会社を経営していた義父は私に「人の倍は働け」と経営者の妻のあるべき姿を厳しく教えてくれていました。私もそれに必死で応えていたのですが、その経験が独学の厳しさの克服につながったと思っています。

大切にしている言葉は…

「一期一会」共に楽しみながら学ぶことを大切にしています。指導者の立場になり多くの出会いの中で成長する自分を感じたり、作品が完成した喜びを共有出来たりしたことが私の一生の宝物です。

健康つくりのために…

生命の貯蓄体操を7年間続けています。

昨年度の北部市民大学活性化計画第1弾では駅家西小学校の手芸クラブの指導をしていただきました。「人の役に立ってうれしかった」と言っていただいたときは私がうれしくなりました。

文責 学長 吉川

科目 コーラスⅠ,Ⅱ

奥野純子先生

岡山県 生まれ

経歴

島根大学教育学部特別教科音楽課程声楽専攻卒業、
同研究生修了 故 吉田功、波多野睦美の各氏に師事
ドイツのブレーメンにあるユリア・ハマリのマスタークラス受講
ストラヴィンスキー弦楽四重奏団、L.グルチン、Gセドゥフ氏等と共演
2005年真庭市誕生記念第九ソプラノソロ、その他ソロリサイタル多数
岡山県立岡山瀬戸高等支援学校校歌『今、ここに』作詞作曲
女声アンサンブル Fiori Musicali 指揮 葛原しげる童謡歌曲を歌う会講師
福山学芸園声楽講師 ふくやま日本歌曲塾演奏会員・運営委員



音楽との出会い…

子どものころから音楽が好きで、日常から母親と一緒に歌い、自然にピアノのレッスンも始めました。小学校に入ると福山学芸園の園長先生についてピアノを習うようになりました。

好きと言うだけで音楽を続けていました…

中学校の合唱部でも伴奏をしていました。ピアノの先生に伴奏をみていただきたくて、練習のテープを持ってレッスンに行ったところ、テープを聞いた先生から伴奏している時と合唱している時の合唱団の歌声が違うと言われ、先生の勧めで歌のレッスンを受けるようになりました。

音楽は若き心と体の健康のもとになります…

歌が歌えると言うことは健康だと言えていると思っています。深い呼吸ができるようになるだけでなく、下の動きは発語を促すとともに嚙下の力もつきます。音楽は健康とつながっているのです。

また、大人の歌の指導をしている時に涙を流す方がおられました。近い方との思い出の曲だったようで、懐かしく話してくれました。音楽は記憶を呼び覚まし、心を揺さぶり、心を豊かにする力があります。

授業にあたって…

現在小さな子どもから専門的に音楽の道に進みたい中高大学生、大人の方は80歳後半の高齢者のレッスンを行っています。まずは元気に音楽を楽しんでほしいと願って指導をしています。

先生は、ただ音楽が好きということだけで音楽を続けてきたと言われましたが、ピアノの先生や中学校、高等学校の先生との出会いなど折々にドラマがあったようです。

文責 学長 吉川

科目 コーラス (伴奏)

海野真理先生

福山市生まれ 大学でピアノを専攻して、湯谷和彦、芦田田鶴子など各氏に師事。「福山新人演奏会」福山文化連盟主催の「音の祭典」などに出演。ロシアの弦楽四重奏団や岡山フィルハーモニック管弦楽団等と数多く共演する。

ピアノコンクールでは、ある中四国大会で準優勝の経験がある。



ピアノとの出会い…

4歳の時に母親の勧めによって練習を始めました。母親は最初私のためにバイオリンの教室を探していたけれど、子どもに見合う教室がなかったので、ピアノを習うことになりました。幼稚園の時には朝に30分、家に帰ってから30分の練習を欠かさずに行っていました。音楽が好きだから続けられました。

小学校では…

ピアニストが美しいドレスを着ているのを見て憧れを持つようになりました。小学校に入ると、学年の合唱ではピアノの伴奏を任されることが多くなり、自信とそれなりのプライドを持つようになりました。任せていただけることに喜びを感じ、ピアノの練習の励みにもなりました。神辺音楽祭でも学校を代表して伴奏をし、プログラムの中に自分の名前が掲載されると嬉しく思いながらも「頑張らなくちゃ」と気持ちを引き締めていました。

教えることは難しいと実感しました…

音大では難しい曲を練習して、クラシックの難題にも取り組みましたが初めてピアノに触れる子の指導には困ってしまいました。先輩の指導法を見学するとともに、最初は小さな子どもと仲良くなることから始めました。

指導した子が「音大を卒業して、ピアノを教えます」と言ってくれたり、立派な社会人になったのを見たりすると嬉しく思います。

大切にしている言葉は…

四字熟語ではありませんが「何とかなるさ」と思って暮らしてきました。音楽に関してだけでなく、生きていくうえで精神的に息詰まると辛いものです。楽天的に明るく暮らしていきたいと思っています。

授業では…

大人になってから音楽をする人の難しさは少し分かるようになりました。楽しさを引き出すような伴奏をするように心がけます。

「音楽の指導をしていてうれしいことは？」と質問したら「立派な大人になっている姿を見た時です」と言われました。音楽の技術だけでなく、音楽を通して、人を育てておられることに感激しました。

文責 学長 吉川

科目 粘土アート

重政信明先生

1949年（昭和24年）福山市 生まれ

経歴

1973年（昭和48年）大学卒業 教員に採用される

1987年（昭和62年）木彫の稽古を始める

2010年（平成22年）退職

受賞歴等

1999年（平成11年）日展入賞 12回 日展会友

2000年（平成12年）日彫展 優秀賞受賞 入賞多数 日彫展会員

2018年（平成30年）日展特選受賞

2020年（令和2年）2回目の日展特選受賞



木彫の松岡高則氏と出会う…

彫塑が好きだったからでしょうか、松岡高則氏と出会いました。勧められるまま木彫に取り組み 40歳の時に広島大学の松本隆司氏と出会って本格的に彫塑を始めました。毎週土曜日に20年間広島まで通って指導を受け、今でも岡山大学の上田久利氏に指導を受けています。

教員をしながら制作を続けました…

習い始めた時、土曜日は半ドンでした。授業が終わったら急いで福山駅まで行き、列車に飛び乗って広島へ向かいました。学校での仕事があったので普段は彫塑のことは考えられません。列車の中で構想を練りながら通っていました。

「分かった」と思った瞬間に喜びを感じるそうです…

夜に塑像に向かってヘラで研ぎだしているときにふと「分かった」という瞬間があります。そんな時はうれしいですね。彫塑を始めた頃の「分かった」と今のそれは大きな違いがあるでしょう。「毎日の積み重ね」が大切です。粘り強く続けることで願いが叶うし、人生を変えてくれるものと思います。

日展特選に選ばれた像は寄贈されました…

2年前に続いて日展で特選を受賞されました。絵画、書道など広島県ではたくさんの作家が日展で入選されましたが、特選は2020年度広島県では唯一の受賞です。その作品は福山市に寄贈され、神辺文化会館に飾られています。なお、初めての特選作品は府中高校に贈られました。

師事している広島や岡山の先生のところへ30年近く毎週かさかずに通って腕を磨いておられることをお聞きし、心から敬服しました。学校では特別支援教育の専門家として活躍されました。 文責 学長 吉川

科目 吹き矢

大 原 正 教 先生

1951年（昭和26年）福山市 生まれ
経歴

1974年（昭和49年）大学卒業

同 年 アメリカのアリゾナに語学留学

1976年（昭和51年）帰国 各種の事業を手掛ける

2007年（平成 9年）講師として指導を始める



アメリカ留学は広い視野を持たせてくれたそうです…

大学を卒業すると同時にアメリカに留学しました。アリゾナ州の大学ではアメリカの各州、メキシコや南米からなど各地からの友人と出会いました。日本からの留学生も多くいて今でも関東や東海などに住んでいる友人とラインをするなど長い付き合いをしています。

アメリカでの体験は衝撃の連続だったようです…

西部劇に出てくるような砂漠にサボテン、空っ風の吹く乾いた風などは映画を彷彿とさせます。アメリカでの友人は皆なユニークでした。車でラスベガスに行って賭博をしたものです。一度や二度ではありません。引き出すことのできない貯金をたくさんしてきました。

日本に帰ってからの先生です…

焼肉屋やゲームセンター、Gパン屋など多くのお店を開きました。焼肉屋では食べ放題を行い連日いっぱいのお客さんに来て頂きましたが価格を安く設定をしすぎたのでしょうか、一年余りで店をやめました。みんなより3歩前を行っていたように思うのですが儲けられない性分です。

好きなことをしてきたと言われていますが…

失敗の中に学ぶことが多かったと思います。商売をしているうちに体調を壊し、友達の会社で働くようにしました。今は「一病息災」の気持ちで自己管理をしています。

吹き矢は健康にいいですよ…

腹から息を一気に出しきり、そして深く吸い込む一連の動作は肺を強くすると思います。階段の上り下りが楽になった人もいます。

「私は修行の様なことをしていない」と言われましたが、先生の経歴は多彩です。コミュニケーション力豊かで行動力に長けているだけでなくスケールの大きさも感じます。

文責 学長 吉川

科目 吹き矢

大原 敦子 先生

1956年（昭和31年）岡山県 生まれ
経歴

1976年（昭和51年）大学卒業

同年 大手総合化学繊維会社に就職



レクリエーション吹き矢との出会い…

吹き矢をしている神戸の友人が「関西で面白いスポーツが流行っているよ」と教えてくれました。聞いたことがなかったことからどのようなものかと好奇心が湧き出たので早速現地に出かけました。「おもしろそう」と感じたので始めたのですがそれが出会いです。

友人の話で神戸まで行くなんて大変行動的な先生です…

思いついたらすぐに行動してしまう私は、習って帰ったらすぐに練習です。仲間を誘い公民館で練習を始めました。平成22年にはローズコムでの体験講座の活動が新聞で紹介され、同じ時期に協会の公認インストラクターの資格を取得しました。

夫妻で協力しながら練習を続けられました…

同じ競技をしていますが、互いに干渉しないようにしています。何をしようと互いに口は出しません。自分の行動は自分で責任を取るようになっていますから。互いに認めているということでしょうか。しかし、ここぞというとき、子育てで行き詰った時などは相談しますし、私が暴走をしそうになったら止めてくれます。

モットーは「人間万事塞翁が馬」だそうです…

長い人生、何が起きるかわかりません。何が幸いして何が禍するのかわからないのが人生です。数年前に体調を壊して辛く悲しい時にたくさんの人の温かさをいただきました。こうして元気に過ごすことができるのは本当に幸せです。

健康に過ごすために…

「腹八分」につきますよ。

レクリエーション吹き矢を夫妻で受け持っていていただいています。定年後の夫婦円満は、夫は昼食時には家にいないか妻のために料理をすることと聞いたことがあります。互いに信頼しているお二人には必要のないことなのでしょうね。

文責 学長 吉川

科目 **健康ヨガ**

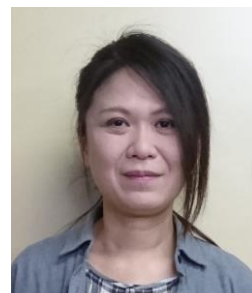
佐藤多美先生

1967年（昭和42年）島根県 生まれ
経歴

1985年（昭和60年）高等学校卒業

2009年（平成21年）シンプルヨガを始める

2013年（平成25年）シンプルヨガ師範



ヨガとの出会いは遅かったようです

高校を卒業したら親の反対を押しきってエステティシャンに…

両親は大学進学を進められたけれど松江市内でエステティシャンになって8年間仕事を続けました。力量もつけ信頼してくれるお客さんも多数出来て自分なりに充実感のある毎日でした。

驚きの転向です…

しかし、「協奏曲」を観て建築士にあこがれました。主演の木村拓哉の建築士がカッコよかったのです。市内に建築士育成の専門学校があることが分かり、4月には入学しました。若い学生と一緒にする授業は難しい専門用語などの苦労もありましたが負けず嫌いな性格ですし新しいことへのチャレンジだったので楽しく勉強ができました。

住宅メーカーに就職してみると今までとは全く違っていました。業者からのするどい指摘や完成期限を切った仕事など厳しいものがありました。しかし大工や左官のおじさんは優しく、施工主の「ありがとう」の言葉は大変うれしくて、頑張って仕事を続けることができました。

いよいよシンプルヨガとの出会いがありました…

同じ会社に勤めていた夫が福山へ転勤したので、それに合わせて福山に転居してきました。知り合いがいないなかでの福山での生活でしたが、主人の実家に出向いたときに母がヨガを勧めてくれました。成瀬グループに所属の森はまこ先生に師事して稽古を始めました。いったん始めるとのめり込む私の様子を見て先生から「本格的にやってみませんか」とお誘いを受けたことで勉強会に参加するようになりました。さらに1人でも稽古を重ね、鏡を見ながら技術を磨いていきました。少しずつ進歩して、ついにはインストラクターを目指すようになりました。

大切にしていること…

ベターッと開脚が出来るようになった人がいます。体が硬い人も「続ける」ことが大切です。ゆっくりで結構です。ちよつとずつの上達でいいのです。楽しく続けましょう。

文責 学長 吉川

科目 **ペン習字**

寺岡照芳先生

1941年（昭和16年）福山市 生まれ
経歴

1959年（昭和34年）高等学校卒業

2001年（平成13年）退職



ペン習字との出会い

高校2年生の時にペン習字の稽古を始められたそうです…

学校に慣れた2年生の時にペン習字クラブに入りました。それまではどのような字を書いても気にはなりませんでしたが、自分の字があまりうまくないことにふと気が付いたのです。さらに学校で毎日練習があるわけではなく、家に帰ってからも稽古ができることから入部しました。

青春らしいエピソード

字が上手な人にありがちな今では考えられないようなことです…

ペン習字のクラブに入り少しずつ上手になり始めた時
「好きな人が出来たので手紙を出したい。書いてくれないか」友達が言うではありませんか。得意な分野ではないのですが、何度も頼まれたので断わりきれずしぶしぶ引き受けました。若い時の照れくさい思い出です。

「分かる」ということ

行書が「分かる」まで5年がかかったそうです…

現代ペン習字研究会の土居荒城先生の指導を受けてきました。熱心な指導に応え真面目に稽古をしました。さらに月刊誌に投稿をすることによって力がついてきたと思っています。

昇段にあたっては、楷書だけでなく行書も書かなくてはなりません。見てまねて毎日稽古をするのですが、なかなか上達しません。昇段できるようになるまで稽古を重ねましたが、行書が「分かる」まで5年の歳月を有しました。

大切にしていること…

とにかく「続ける」こと。長くやっていれば何とかなるものです。高校時代に自分より上手な人はたくさんいました。今まで続けたのは自分だけです。愚直に続けてきたので何らかの財産が出来たものと思っています。

「石の上にも3年」 とにかく続けることで何かが見えてくると言われたことが印象的でした。

文責 学長 吉川

科目 **絵手紙**

橋本久子先生



1945年（昭和20年） 兵庫県 生まれ
経歴

1964年（昭和39年） 高等学校卒業
同年 商事会社に就職

1968年（昭和43年） 退職

講師歴等

1996年（平成8年） 絵手紙協会講師

1997年（平成9年） 東京大丸及び産経学園自由ヶ丘で講師

1998年（平成10年） 群馬女子短大オープンカレッジ講師

1998年（平成10年） 読売日本テレビ文化学園講師

その他 各地の郵便局，JAで絵手紙教室講師

サンシャイン池袋で産経新聞社のイベント講師

KKR新潟湯沢ホテルのイベント講師 他

明治生まれの父親に育てられました…

厳格な父親に厳しくしつけられました。夕方は午後6時の門限に必ず間に合うように帰宅していましたし、食事のマナーにも厳しかったです。しかし、歳の離れた兄がやさしくかばってくれたのでいろいろな経験もできました。

ただ、絵画などの制作は好きでしたが門限が早かったので習い事はあまりできませんでした。

まずは鎌倉彫に出会いました…

夫の転勤で10数回の転居を繰り返しましたが、その間に鎌倉彫をずっと続けました。日常使いのお盆や茶托、お椀など数多く作成し、展覧会に出品できるようになりました。

いよいよ絵手紙と出会いました…

夫の転勤によって2年間だけ福山に帰っていたときのことで。たまたま東京に出かけたとき銀座の鳩居堂で行われていた展示会で絵手紙と出会いました。あまりもの素晴らしさに感動して、小池邦夫先生に直接「教えていただきたい」とお願いしました。最初は文通を通して教えていただき、絵手紙協会の設立後は、協会の評議員として運営にも参加しました。

学生の皆さんに…

絵心があるかないかは関係ありません。今まで習ったことは忘れて「素」の気持ちになって取り組んでいただきたいと思います。

文責 学長 吉川

科目 **イキイキ体操**

岸 本 宗 久 先生

1957年（昭和32年） 福山市 生まれ

経歴

1981年（昭和56年）大学卒業

同 年 福山市公立学校教諭として採用

2014年（平成26年）退職

2014年（平成26年）福山市野外活動研究会 設立

2015年（平成27年）福山サッカー協会理事

2017年（平成29年）福山市老人大学講師

研修歴等

1994年（平成6年）兵庫教育大学大学院に現職で編入

1996年（平成8年）教科領域教育（生活健康系を専攻）修士学位取得

1995年（平成7年）スポーツトレーナー資格取得（文部省）



中学時代に素晴らしい先生との出会いが教員になるきっかけでした…

恩師の先生はスポーツが得意で頭もよくあこがれの存在でした。陸上競技のハイドルの有名な選手で、進学した大学でも指導をうけました。福山で教員を続けているときには、平成大学の教授として赴任してこられ授業づくりの指導も受けました。深い縁を感じます。

小学校の教諭としての一番の思い出は「担任したすべての子供たち」です…

学級での出来事を毎日学級通信に書いて、児童や保護者との連携を図りました。保護者が新聞に投稿したことで、取り組みが掲載され、思い出深だけでなく、学級通信から多くのことを学ぶことができました。

5年生の担任の時に出場したいかだレースも心に残っています。児童が協力して竹で作ったボートが準優勝を勝ち得ることができました。のどかな時代でしたが大きな思い出です。

老大で指導してきたのごたえは…

人生100年時代といわれますが、学生の皆さんの健康への意識の高さを感じています。「家で転ばなくなったので安心です」と言われたときは嬉しかったです。アンケートでも、体が柔らかくなっていろいろな動作が楽になったとか、膝の痛みがなくなったなどの話を聞きましたが授業の成果が出てよかったですね。クリニックではないのであくまで個人の感想ですけれど。

高齢者の健康に大切なのは「筋力アップ」と「柔軟性」です。健康の維持向上を図り健康寿命を皆さんと伸ばしていきたいものです。一緒に学んで楽しい教室にしたいと考えています。

文責 学長 吉川